

平成 2 1 年 度 全 国 麦 作 共 励 会 受 賞 者 名 簿

農家の部

賞 名	氏 名	住 所
農 林 水 産 大 臣 賞	たかはし かずお 高 橋 和 男	ほっかいどうあばしりくふつべつちようあざとよなが 北海道網走郡津別町字豊永 355 (北海道ブロック)
全 国 米 麦 改 良 協 会 会 長 賞	さいた ふじ ひさ 斉 田 藤 尚	ふくおかけんあさくらぐんちくぜんまちひがしお だ 福岡県朝倉郡筑前町東小田 1879 (九州ブロック)
全 国 農 業 協 同 組 合 中 央 会 会 長 賞	いとう かずし 伊 藤 一 志	みえけんくわなしながしまちようまつかげ 三重県桑名市長島町松蔭175 (東海・近畿ブロック)
全 国 農 業 協 同 組 合 中 央 会 会 長 賞	お ち まさゆき 越 智 優 行	えひめけんさいじょうしひみおつ 愛媛県西条市氷見乙782 (中国・四国ブロック)
全 国 農 業 協 同 組 合 連 合 会 会 長 賞	とづか としお 戸 塚 敏 男	さいたまけんほんじょうしたきせ 埼玉県本庄市滝瀬181 (関東ブロック)
日 本 農 業 新 聞 会 長 賞	とう だ ゆうぞう 東 田 郁 三	いしかわけんこまつしたくえいまち 石川県小松市拓栄町392 (東北・北陸ブロック)

集団の部

賞 名	集 団 名	所 在 地
農 林 水 産 大 臣 賞	ほうとくばくさく(みあい) 報徳麦作組合 だいひようしゃ かげやま ひでき 代表者 影山 秀樹 殿	ほっかいどうあばしりくふつべつちようあざほうとく 北海道網走郡美幌町字報徳 だいいち 第1 (北海道ブロック)
全 国 米 麦 改 良 協 会 会 長 賞	有限会社 葛原アグリ 代表者 よしもち しげのり 吉用 繁則	おおいたけんうましおあさぐずはら 大分県宇佐市大字葛原479 (九州ブロック)
全 国 農 業 協 同 組 合 中 央 会 会 長 賞	札野地域営農組合 代表者 はつとり みつぐ 服部 貢	ぎふけんかいづしかいづちようひだの 岐阜県海津市海津町札野38 (東海・近畿ブロック)
全 国 農 業 協 同 組 合 連 合 会 会 長 賞	ひがしのうぎようせいはん(みあい) 東農業生産組合 代表者 かわむら ただお 川村 忠夫	いわてけんしわくちんやほちようあおあざ 岩手県紫波郡矢巾町大字 ひがしとくた 東徳田10-66 (東北・北陸ブロック)
日 本 農 業 新 聞 会 長 賞	よしだかみせいさん(みあい) 吉田上生産組合 代表者 すず か きよしげ 鈴鹿 清重	えひめけんさいじょうしこまつちようあおとこう 愛媛県西条市小松町大頭甲 1042-1 (中国・四国ブロック)

中国四国農政局管内受賞団体の概要

農家の部 全国農業協同組合中央会会長賞受賞「越智 優行」氏の概要

氏名	おちまさゆき 越智 優行 (26歳)		
住所	えひめけんさいじょうし 愛媛県西条市		
経営耕地面積	5.2ha (うち麦作付面積: 5.1ha)		
麦種(品種)	はだか麦: 5.1ha (マンネンボシ: 5.1ha)		
単収	516kg/10a		
1等比率	100%	労働時間(hr/10a) (乾燥調整除く)	9.8時間 (9.8時間)

<取組概要>

越智氏は、26歳の若手経営者で、主に父と母の3人で、水田513a(うち借地150a)、畑3aの農業経営を行っている。麦作を始めてから5年と栽培経験年数は短いものの、10a当たり収量は516kg/10a(愛媛県平均単収: 277kg/10a)と県内でもトップクラスの収量を上げている。

麦の生産に当たっては、麦は湿害に非常に弱いことから、水稻収穫後に、全ての圃場で本暗渠と垂直方向に2m間隔に弾丸暗渠を施行するなど、排水対策を徹底している。また、栽培品種であるマンネンボシは、倒伏には強いが穂数が少ないことから、基肥に加え3回の追肥を行うとともに、踏圧を適期に3回実施を徹底することにより、茎数の確保に努めるなど、多収栽培を実施している。

また、土づくりにも力をいれており、稲わらの全量還元、鶏糞等の有機物を施用するとともに、はだか麦は酸性土壌での生育が悪いため、土壌改良材である苦土石灰の施用による酸度矯正を行っている。

さらには、ドリルシーダーを使用したドリル播きで、適量の播種を行うことにより、過繁茂による黄枯れ症の発生を防止するとともに、従来の条間30cmでは遅れ穂の発生による品質低下が懸念されることから、条間を平均15cmにし穂の均一化を図ることにより、高収量・品質安定栽培を行っている。

経営面では、経営圃場は全て基盤整備田で、自宅から1.5km以内に集約ことによる労働時間の削減や鶏糞等低価格資材の一括購入による資材費の低減などにより、コスト削減を図るとともに、単収の更なる向上による単位生産物当たりのコスト低減を図っている。

はだか麦について実需者からの増産の期待が高まっている中、越智氏は、地域の麦作経営の担い手として大いに期待されており、今後は利用権設定等による作付面積の拡大を図るとともに、目標である単位当たり収量12俵(720kg/10a)に向けて、更なる増産に取り組んでいくこととしている。

中国四国農政局管内受賞団体の概要

集団の部 日本農業新聞会長賞受賞「吉田上生産組合」の概要

氏名	よしだかみせいさんくみあい (代表者 鈴鹿 清重)		
住所	えひめけんさいじょうし 愛媛県西条市		
経営耕地面積	36.0ha (うち麦作付面積: 36.0ha)		
麦種(品種)	はだか麦: 36.0ha (マンネンボシ)		
単収	353kg/10a		
1等比率	98.5%	労働時間(hr/10a) (乾燥調整除く)	7.6時間 (7.6時間)

<取組概要>

吉田上生産組合の位置する西条市は、古くからはだか麦産地である愛媛県にあって、作付面積770ha、収穫量2,553ト(H21)と面積・量ともに全国一を誇っており、近年、はだか麦の増産が実需者から求められている中、生産者、関係機関・団体が一体となり、はだか麦の増産に取り組んでいる。

当組合は、日本一のはだか麦産地を支え、生産拡大を推進する担い手組織として、また、協業により生産性を向上させ、組合員の共同の利益増進を目的として、平成18年に設立され、平成19年産のはだか麦(2,590a)から栽培を開始し、通年の利用権設定により農地を集積することにより、平成21年産は3,603aと規模拡大を図っている。

麦の経営にあたっては、麦産地の維持・発展を図っていくためには、省力化・低コスト生産を図ることが喫緊の課題となっていることから、経営費の削減に力を入れており、10a当たり経営費は28,584円と低コスト生産を実現している。

特に、労働費及び農機具費の削減には力を入れており、適期に効率的な作業を実施できるように、農地を3つのブロックに分け、ブロック長を中心とした、少人数のグループで作業することにより、効率的な作業体制を構築し、労働費の削減に努めている。

また、全ほ場基肥一発タイプ肥料の導入による追肥作業の省略や麦栽培圃場の面的集積により作業の効率化等に努めることで、10a当たり労働時間は7.6時間と県平均の10.1時間を大きく下回っている。

農機具についても、大豆用の土入れ機を麦に汎用利用できるように改良するとともに、トラクターに動力噴霧器を装着して防除に使用するなど独自に機械を改良し、経費の低減に努めている。

栽培面では、排水対策の徹底、適期防除などの基本技術を励行するとともに、従来の条間30cmでは遅れ穂の発生による品質低下が懸念されることから、条間を平均15cmとし、穂の均一化を図ることにより、高収量・品質安定栽培を行っている。

現在、はだか麦は実需者からの増産に期待が高まっており、生産拡大に向けプラスの要因がある一方、農家の高齢化による担い手の減少等、将来的に農地の維持管理が難しくなっていくことが懸念されている。

このような中、当組合では、日本一のはだか麦産地の維持拡大に向け、今後も麦作面積の拡大とあわせ、省力栽培による安定した経営を図り、地域農業の担い手として集落営農法人への発展を図っていく。